

令和3年度 横浜薬科大学実務実習成果報告会・指導者連携会議

本年度の横浜薬科大学実務実習成果報告会・指導者連携会議では、特別企画として、第2部に横浜薬科大学地域連携オンラインセミナーをご用意しました。これから大きく変化する薬剤師職能の未来の形を共有する機会となれば幸いです。

11月20日（土曜日） 9:30～13:00

コロナ禍のため、オンライン（Zoom）により実施します。
Zoom ミーティングの参加をご希望される方は、

jitumu@yok.hamayaku.ac.jp に、ご連絡ください。



【 会次第 】

開会の辞 加藤真介 横浜薬科大学薬学部長

1部. 横浜薬科大学実務実習連携会議 9:30～11:00 司会 佐藤 透
横浜薬科大学教授 実務実習センター長

1. 実務実習センター報告：
前年度実務実習結果の報告とフィードバック、今年度の実施状況の報告等
2. 薬局・病院実習連携事例報告：
薬局：大貫ミチ 薬樹薬局宮前平2号店 管理薬剤師
病院：谷川浩司 横浜総合病院薬剤部 副部長
大学：日塔武彰教授、渋谷昌彦准教授
実習生：成果報告 I II期実習生
3. 基調講演：コロナ禍の実習施設における実務実習の状況
澤井 孝夫 横浜医療センター薬剤部 部長
4. 総合討論

2部. 横浜薬科大学地域連携オンラインセミナー 11:00～13:00
地域包括ケアシステムの潮流 -薬剤師の未来を考える- 司会 波多江 典之
横浜薬科大学教授 浜薬研究会 WG 代表

- 座長：佐藤 透 横浜薬科大学教授 実務実習センター長
- 講演1：地域包括ケアが求める薬剤師像とは、〇〇である。
講師：川越 満 木村情報技術株式会社事業部長
- 講演2：地域包括ケアが目指すこと
～薬局、病院の現状・課題と大学の役割～
講師：木村 正幸 横浜薬科大学参与 客員教授

総合討論

閉会の辞 磯村茂樹 横浜薬科大学教務部長

主催 横浜薬科大学 実務実習センター 共催 浜薬研究会
後援 神奈川県薬剤師会・神奈川県病院薬剤師会

神奈川県薬剤師会・神奈川県病院薬剤師会後援

横浜薬科大学地域連携オンラインセミナー

地域包括ケアシステムの潮流**—薬剤師の未来を考える—****11月20日(土曜日) 11:00~13:00**

講師紹介

地域包括ケアシステムに関する理解を深め、変革期にある薬剤師の将来を考える機会になればと思います

川越満先生

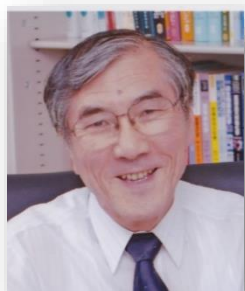
木村情報技術株式会社

コンサナリスト®事業部 事業部長

地域包括ケアにおける薬剤師の役割は、在宅医療への参画だけではありません。在宅医療に参画することはもちろん重要ですが、目指す方向性は3つのアウトカム（臨床的アウトカム+患者（医療従事者）の主観的アウトカム+経済的アウトカム）にコミットすること



ことで地域全体のアウトカムを向上させ、さらには医師を薬物療法から解放することです。改正薬機法（オンライン服薬指導、服薬フォロー、地域連携薬局+専門医療機関連携薬局）や働き方改革、データヘルス改革（資格認証制度、電子処方箋）、デジタルトランスフォーメーション、入退院支援、（地域）フォーミュラリ、薬剤師外来などのキーワードと共に、地域包括ケアが求める薬剤師像についてお話したいと思います。

**木村正幸先生**

横浜薬科大学 参与、客員教授

薬学博士、薬剤師

高齢者への地域の包括的な支援・サービス提供

の一体的提供体制の構築を目的に「地域包括ケアシステム」の機能の実施が求められている。厚労省は「地域包括ケア」を推進するため設置した「健康サポート薬局」をその実施の拠点と位置づけたが、その届出は期待数よりかなり少ないのが現状である。これを改善すべく、診療報酬に地域支援体制加算を追加し、更に薬機法を改正し、地域連携薬局制度を導入し、地域包括ケアを認定要件として重視している。

本システムにおいて、薬剤師は1) 適切な薬物治療の提供、2) 健康サポート機能、3) 在宅医療への対応が期待される役割であるが、薬局薬剤師、病院薬剤師は、地域包括ケアシステムを十分理解・認識しているとは言いがたい。これを強化するためには、「薬・薬連携」への取組みと「地域ケア会議」への参加が重要である。地域包括ケアシステムの推進には、大学が地域連携の拠点として介入する役割はあるのではと考えます

当日は、15:00~ 第19回かながわ薬剤師学術大会2021が開催されます。

(詳細は、<https://events.noge.co.jp/~kpa> をご覧ください。) 学術大会へのご参加も、よろしく申し上げます。